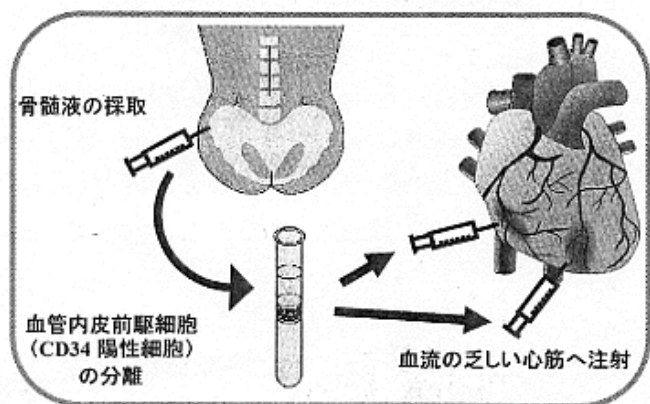


信大病院が発表した手術の概要図



信大病院

骨髓細胞で血管再生

心臓治療に応用

松本市の信州大学医学部付属病院（勝山努病院）は十二日、重い狭心症で胸部に不快感があった県内の男性患者（仮名）に対し、本人の骨髓細胞を採取して心臓に注射して移植し、心臓の表面を覆う血管を再生させる治療を実施した、と発表した。この治療で貧弱だった血流が改善され、胸が圧迫されるような症状はなくなったという。男性は十月二日に退院した。記者会見した池田亨一（循環器内科長）によると、信大チームは血管の再生に効果的な「CD34陽性細胞」のみを骨髓細胞から分離して移植を行

療法を心臓に応用した。薬物治療や血管内治療、バイパス手術でも症状の改善が期待できない患者

に苦しむ患者の治療にすでに利用されている。信大病院はこれまで十七例を行った。今回はこの治

に効果があるという。

池田循環器内科長は「食生活の欧米化や高齢化で日本でも動脈硬化による狭心症や心筋梗塞（いんそく）が増えており、血管再生は有効な治療」と話していた。

三年前からサルを使った動物実験（七体）で安全性を確認してきた。昨年一月に医学部の医倫理委員会で承認され、今年九月、男性に実施した。男性の心臓には治療の必要がある血管が三本あったが、他の二本は骨髄移植に合わせた通常のバイパス手術で治療した。

酒気帯び運転で男性に重傷負わず

松本の容疑者逮捕

松本署は十二日、業務上過失傷害と道交法違反（酒気帯び運転）の疑いで、松本市平田東一、公社職員・加藤章嗣容疑者（三〇）を現行犯逮捕した。